

Blackboard@Tamagawa 活用事例

01 脳科学研究所准教授：松元 健二 先生

コア科目「脳の科学」で、問題意識の喚起に活用

松元先生は、神経科学一般を専門分野にされています。「目標指向行動」「意思決定」「動機づけの脳内機構」などをはじめとして、日々の私たちの行動における様々な動機から意思決定、行動へと結びつける脳内メカニズムを最新の脳機能イメージング技術を用いて明らかにしていく研究活動などに取り組まれています。

また、教育活動においては、コア科目「脳の科学」、「意思決定システム特論」、「生理心理学」、「脳科学と社会」などを担当されています。

脳の科学的理解を促すために、脳の働きについての問題意識を高めることができるようにBlackboard@Tamagawa(以下Bb)を有効活用されている事例を紹介いたします。



科目の実施規模と講義での Bb の活用

◆科目名:脳の科学(コア科目 受講者約92名)
◆授業概要:脳トレやアハ体験という言葉に象徴される脳ブームが訪れるはるか以前から、玉川大学では脳科学研究が地道に続けられてきましたが、そのような伝統に根ざした本物の脳科学を、学生に分かりやすく伝える科目が、自然科学科目群コア科目の「脳の科学」です。脳科学研究所の専任教員5名がこの授業を担っており、それぞれ90名程度の受講者があります。私が担当する授業では、「脳の各部分が持つ特有の機能、および部分間の関係についてのイメージを獲得する」ことを到達目標として、感覚機能、運動機能そして高次機能のそれぞれについて、数回ずつの授業を行っています。脳内の構造の名称を覚えてもらうことには重点をおかず、脳は何をできて、それをどのように実現しているのか、そのリアリティを湧かすことに重点を置いています。

授業前アンケートの実施

脳という器官は、私たち一人ひとりが持っていますから、その脳全体の働きについては、自分自身の心の働きとして誰もがリアルに感じています。しかしこれがどのような要素的な働きがどのように統合されているのかということになると、脳の科学的な理解抜きには、途方にくれてしまうわけです。脳の科学的な理解を促すためには、正しく脳の機能を分解して、要素毎に適切に問題意識を喚起することが早道です。この要素毎の問題意識の喚起のために、Bbのアンケートを利用しています。毎回の授業の2-3日前には、Bb上にアンケートをアップしておきます。例えば、聴覚についての授業の前には、「音が聞こえなかったら困ること、聞こえるとよいことについて、考えてお答え下さい」というアンケートを実施します。そして、授業当日には、集まったアンケート回答すべて目を通します。誰にも共通する回答がたくさん出て

くる一方で、一人ひとりの個性が強く反映された回答も結構出てきます。読む方も楽しく読め、逆に教えられたりもします。アンケート結果の中からキーワードや特に面白い回答にはマークをつけておき、これを授業の最初に見せながら、講評していきます。ときどきはその回答からさらに膨らませて、解説や私自身の考えを少し加えたりもします。このようにして、受講者が授業にコミットしていることを自覚して貰い、その上で、通常の授業に入ります。

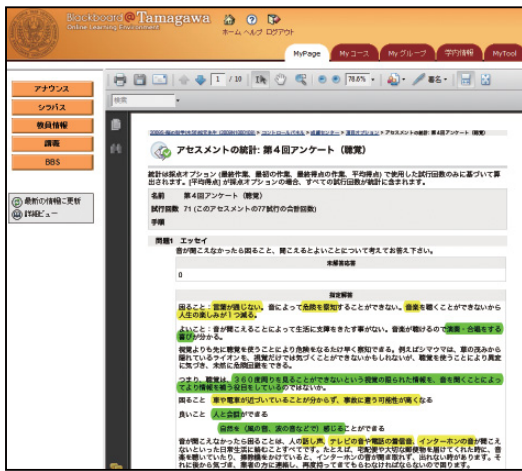


図1. アンケート結果

なお、受講者がアンケートに答えてくれなかったらこのようなアンケートの利用は成り立ちませんので、必ずこのアンケートに答えてから授業に臨んで貰うように全受講者に、予め働きかけておきます。これには、最初の授業の前に、Bb上の「アナウンス」および「すべての受講者ユーザー」への「eメールの送信」を利用しました。この際、「アンケートに答えたかどうか」は、成績に反映させることを受講者にも明言します。

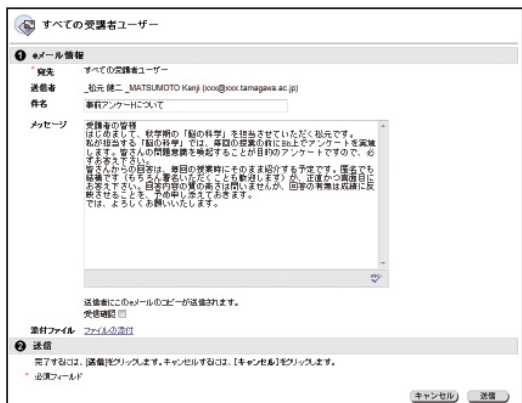


図2. 受講者へeメール送信

しかし、アンケートそのものは、自分自身で考えて、本当に思うところを答えて欲しいので、「回答の中身は成績に反映させない」とし、そのことも受講者には明言しています。実際、各受講者のアンケート回答の有無、および全回答一覧は、「成績センター」から確認できますが、それぞれの回答が誰の回答なのかは、教員側にも分からなくなっています。ただ、自分の回答であることをアピールしたい人もいるかもしれませんが、敢えて名前等を回答に含めることも歓迎しています。

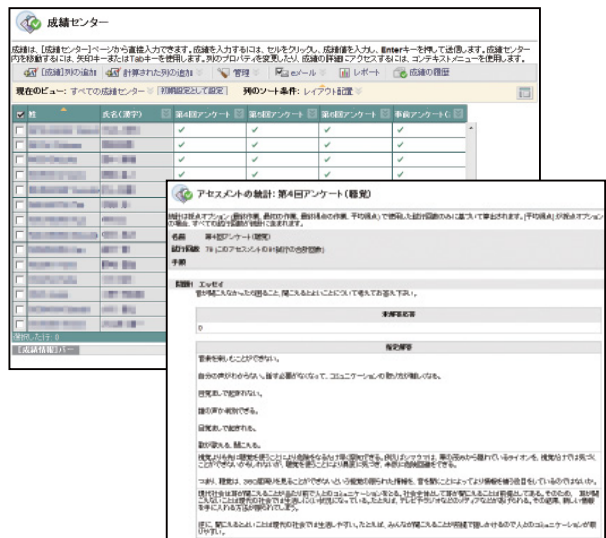


図3. 回答者の確認と回答一覧

授業用 ppt ファイルの保存

授業自体は、パワーポイントによるプレゼンテーションを毎回行っていきます。脳の科学はどうしても、脳の図など、図が多くなってきますので、これをいちいち板書していると、それだけで時間を浪費してしまうからです。受講者側としても、図をノートに写したりしては、そればかりに労力が取られ、肝心の脳の働きをイメージすることが疎かになってしまいますので、授業のファイルは、予めBbのコンテンツ領域にアップロードしておき、授業にはそれをプリントアウトしたもを持ってこられるようにしています。パワーポイントのファイルは画像を多く含めると、かなりのファイルサイズになるので、これをいつでも学生がダウンロードできるように置いておけるBbシステムは、非常に有用だと思います。

大学共通コンピュータ・MyPC 演習室

MyPC プリンタに関して

◆大学共通コンピュータ演習室

秋セメスターより、大学共通コンピュータ演習室が新しくなりました。OSがWindows Vista EnterpriseとLinux (CentOS)のデュアルブートに、MS-Officeは、2007に更新されました。

表 1. 秋セメスターからの大学共通コンピュータ演習室

校舎	教室名	定員	用途
大学 1 号館	304	46	授業、自習
	305	46	授業、自習
大学 5 号館	127	46	授業、自習
大学 8 号館	222	70	授業、自習
	223	50	授業、自習
	554	50	自習専用

*授業用 5 室、自習用 1 室



◆ MyPC 演習室新設

大学 2 号館 309 と視聴覚センター 301 を新たに MyPC (学生の持込 PC) 用の PC 演習室といたしました。この演習室には教員 PC と各学生卓に教員 PC 等の投影用液晶ディスプレイ、また MyPC 用のプリンタも設置しました。各学生卓には、有線 LAN および電源コンセントを備えております。MyPC を利用した演習のために新設いたしましたので、ご活用ください。



◆ MyPC 用プリンタの設置

学生専用の MyPC 用プリンタ (カラー印刷可, A4 サイズのみ) を、9 月より設置いたしました。MyPC ネットワークに接続し、印刷を実行後、いずれかのプリンタ設置場所へ行き、タッチパネルを操作することで、印刷物を取得することができます。学生には年間使用可能ポイント (400 ポイント) が付与されており、ポイント数内ならば自由に印刷が出来ます。なお、カラーは 5 ポイント、モノクロは 1 ポイント消費されるようになっています。

表 2. MyPC 用プリンタ

校舎	設置場所	台数
大学 1 号館	3 階 302 ラウンジ	2
大学 2 号館	3 階 306 IT 自習室	2
大学 5 号館	1 階読書室	2
大学 7 号館	5 階 506	2
大学 8 号館	3 階 351	2
大学 9 号館	ロビー	2
視聴覚 2 階	204	4
図書館本館 3 階	第一閲覧室	1



大学共通コンピュータ演習室、MyPC 演習室、MyPC 用プリンタの詳細については ICT 基盤推進室ホームページ <http://www.tamagawa.ac.jp/ict> の TOPICS をご覧ください。このページは演習室情報のみならず、大学のネットワークに関する情報も提供しております。

Blackboard@Tamagawa

2009年度 春学期授業のコース統計

2009年度春学期のBbの活用率とコース統計結果をご報告します。各学部、コア科目、教職関連科目全体の活用率は47.1%、専任教員の活用率は65.0%、学生の活用率は96.7%となりました。

活用率が高かったのは、経営学部、リベラルアーツ学部、文学部です。2008年度と比べて、農学部の活用率が増加しました。複数の教員がご担当で、情報を共有する必要のある実験や演習などの授業で活用が増えています。

授業コース以外でも、インターンシップ、ボランティア活動や研修等でグループが幅広く活用されています。

Blackboard@Tamagawa 活用推移 (大学全体)

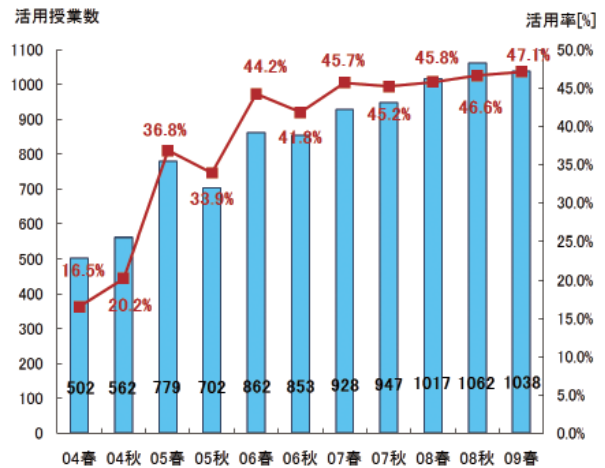


図. 授業における Blackboard @ Tamagawa 活用状況

- ①授業数：正式に登録され、開講された授業コード数
 ②活用数：①の授業のうち、Bbを活用した授業コード数
 ③活用率：授業のうち、Bbを活用している割合 (= ②÷①×100)

表 .Blackboard@Tamagawa 活用推移 (学期単位)

	2004 春		2004 秋		2005 春		2005 秋		2006 春		2006 秋		2007 春		2007 秋		2008 春		2008 秋		2009 春	
	コース数	活用率	コース数	活用率	コース数	活用率	コース数	活用率	コース数	活用率	コース数	活用率	コース数	活用率	コース数	活用率	コース数	活用率	コース数	活用率	コース数	活用率
文学部	116	21.9	108	26.7	198	45.9	183	39.3	225	55.7	201	49.1	227	60.4	207	54.8	202	60.3	225	63.1	160	63.7
農学部	11	5.0	9	5.0	39	19.4	36	18.5	67	29.1	73	33.5	74	38.4	69	38.9	73	39.6	64	36.2	86	55.2
工学部	23	6.9	25	9.8	78	27.2	77	28.1	138	44.4	123	39.8	129	45.0	126	49.0	96	38.4	98	42.1	96	36.4
経営学部	241	88.3	240	98.1	224	100.0	225	99.2	209	99.1	217	97.0	128	67.4	171	72.2	188	72.7	190	72.4	183	74.5
教育学部	28	7.9	31	14.5	45	17.0	48	18.4	65	25.1	49	19.2	84	33.2	75	29.9	84	29.3	85	29.4	87	28.0
芸術学部	20	2.5	15	4.4	48	24.0	31	11.8	63	27.0	45	25.4	91	28.6	66	27.2	76	28.7	79	31.1	85	35.5
リベラルアーツ学部													40	79.6	47	80.0	84	75.8	75	76.0	124	72.8
コア	19	10.2	21	11.9	49	26.8	49	24.5	67	33.0	77	34.0	88	49.0	99	49.5	91	49.8	94	47.6	82	45.9
教職関連科目		0.0		0.0		11.4		20.0		28.6		22.9	5	38.5	9	37.5	5	38.5	9	40.9	4	23.5
総計	462	16.5	453	20.2	711	36.8	669	33.9	834	44.2	785	41.8	866	45.7	869	45.2	899	45.8	919	46.6	907	47.1

- (注) ①コース数：教室での対面授業を1コースとして、授業コード区分別(各学部、コア/教職共通科目)に集計。
 ②受講者のべ数、教員実数：利用者を所属学部別に集計。
 ③活用率：各学部開講授業コードを元に集計。(図. 注釈参照)
 ④コース数と活用率の違い：コース数は、Bb 利用対面授業数を把握する目的で集計。
 活用率は、全授業中の活用の割合を把握するため、授業コードを元に集計。

編集後記

今回は、コア科目自然科学科目群の「脳の科学」で、事前アンケートを行い、実際に講義で内容を反映している事例の報告をして頂きました。アンケートや成績センターなどの機能に興味がありましたら、どうぞお気軽にお問い合わせください。

秋学期授業も Blackboard@tamagawa をぜひご活用ください。

e-Education NewsLetter 2009 Vol.3

2009年10月発行

玉川大学

eエデュケーションセンター メディア教育推進室

東京都町田市玉川学園6-1-1

Tel: 042-739-8820

Fax: 042-739-8825

eメール: bbhelp@tamagawa.ac.jp